

2019年11月22日  
イオンディライト株式会社

清掃スタッフの専門性向上により医療関連施設の高度な衛生環境づくりに貢献

## 「2019年度衛生清掃 年次研修会」を開催

イオンディライト株式会社（本社：大阪市、代表取締役社長兼社長執行役員 グループ CEO：濱田和成、以下「当社」）は、2019年11月17日、18日に当社がサービスを提供する京都大学医学部附属病院、および芝蘭会館（京都府京都市）にて「2019年度衛生清掃 年次研修会」（以下、「本研修会」）を開催しました。



左：UV-C 照射機（紫外線で殺菌する最新機器）の視察 中央：仙台医療センター看護師長 石栗広志様の講演  
右：グループディスカッションの様子

「衛生清掃」とは医療機関等、高い衛生レベルを必要とする施設を対象に、医療関連感染対策を組み込んだ当社独自の清掃サービスです。当社では、27,000床を超える医療施設に対し、衛生清掃及びその他のサービスを提供しており、医療施設に従事するクリーンクルー（当社清掃スタッフの呼称）は全国で約850名となります。サービス提供に際しては、動画マニュアルやOJTを通じたクリーンクルー個々の専門性・技術力向上に加え、2017年からは年次研修会として全国の清掃責任者とクリーンクルーを対象に衛生清掃の最新情報や好事例の共有等を行うことで品質維持向上に繋げています。

第3回目となる本研修会では、独立行政法人国立病院機構仙台医療センター 看護師長 感染管理認定看護師 石栗広志様より、「感染対策の基本 清掃に入って頂く方に、お伝えしたいこと」と題し、基礎的な感染制御に関する知識と病院側が求める清掃サービス品質について講演をして頂きました。その他、京都大学医学部附属病院内のインスペクション（品質管理）実習やディスカッションにより、参加者相互の視点を取り入れ、更なる品質向上に繋がる取組みを行いました。

当社は、更なる持続的成長に向けて、2018年10月にイオンディライトビジョン2025を掲げ、アジアにおいて、「安全・安心」、「人手不足」、「環境」の3つを成長戦略の柱に社会課題を解決する環境価値創造企業を目指していくことを決めました。

近年、感染制御を取り巻く環境は大きく変化しています。抗生物質が効かない耐性菌の出現や輸入感染症、新興感染症の発生など、医療機関に限らずリスクマネジメントの一環として感染制御の社会的重要性が益々高まっています。

こうした中、当社では引き続き、クリーンクルー一人ひとりの専門性・技術力向上を通じた品質向上と病院や研究所などの各種機関との連携により、高品質なサービスの提供を目指してまいります。

### — 本リリースに関するお問い合わせ先 —

イオンディライト株式会社 ディライトコミュニケーション部  
TEL：03-6840-5712 FAX：03-3524-8902